

平成 28 年 10 月 18 日

ケニア無料医療活動レポート

NPO 法人アフリカ支援 アサンテ ナゴヤ 理事長
一般社団法人 愛知県鍼灸師会会員 石川 佳子

NPO 法人アフリカ支援 アサンテ ナゴヤの主催による、ケニアのゲム・イースト村での無料医療活動も今回で 7 回目を迎え、無事に終了することができました。今年はシルバーウィークの関係上、例年より 1 週間遅れて、9 月 16 日(金)から 27 日(火)まで出かけました。ケニアでの医療活動は、私個人としては、ナイロビのスラム地区での活動を加えると 8 回目となります。日本人参加者は 20 名で、内科医 5 名、小児科医 3 名、皮膚科医 1 名、採血 2 名、検査 2 名、薬局 3 名、受付 1 名、告知 1 名、そして鍼灸師は当会員の坂光信夫先生と私の 2 名でした。坂光先生は 4 年連続 5 回目の参加となります。



長谷川会長のご理解をいただき、私が 2011 年に愛知県鍼灸師会会員の皆様に私どもアサンテ ナゴヤの活動にご支援をお願いしたところ、これまでに当会員の坂光信夫先生、児山俊浩先生、西いずみ先生のお 3 方が、現地での活動に参加くださいました。坂光信夫先生は私どもの理事を務めてくださっています。

私たちが活動しているゲム・イースト村はナイロビから 300 km くらい離れた農村で、電気も水道もなく、ケニアでも HIV の感染率の高いところでした。2010 年に初めて現地を訪れた時は、HIV 抗体検査の陽性率は 23% でした。

それが昨年は 5.6%、今年は 4.15% と確実に陽性率が下がっています。この背景には、私たちアサンテ ナゴヤの地道な活動と現地の協力団体・ルーネルドの啓発活動などによる、住民の意識の変化があると思います。2010 年頃には HIV 検査を受けることも偏見で見られる傾向でしたが、現在は自ら進んで検査を受ける住民が多くなりました。

今年のキャンプには鍼灸も含めて総患者数として 1370 名の人達が受診しました。内科と鍼灸というように複数の科を受診する人もいるので、のべ患者数は 1550 名でした。患者さんは、敷地内に張られたテントの中で、受付の順番を待ちます。キャンプの最初の頃は、現地の人たちは並んで待つことができませんでした。でも、並ばないと診療してもらえないことを徐々に学びましたので、今では写真のように並んで待っています。それは診療の場でも同じです。

最初の写真は今年のスタッフです。現地のボランティアも一緒です。人間はとても小さく写っていますが、後方に大きな塔がそびえ立っています。昨年掘削された、深井戸から井戸水を汲み上げ、貯水するためのタンクが設置してあります。今年のキャンプでは、残念ながら施設の中で井戸水を使うことはできませんでしたが、施設内に通水されるのも間近のことでしょう。



現在、診療はコミュニティセンターの建物の中で行われるようになり、私たちは体調を崩すことなく元気に診療に励むことができるようになりました。

鍼灸チームは、石川と坂光先生、通訳のリリアンと3人でタグを組んで頑張りました。今年のキャンプでは5日間で197名の人たちを治療させていただきました。一日の始まりは比較的のんびりと治療しているのですが、1時間くらいすると、患者さんが廊下で長い列をつくります。そうになると、治療は迅速治療となり、ベッドに二人ずつ座ってもらって、腰や肩の背中側と、足などの前面を同時に治療しないと間に合いませんでした。今年でも大変でしたから、昨年250名もの人達を診療されたのは本当にお疲れ様でした。

現地で役に立ててもらおうと、今回も小児ハリ教室をしました。私が英語で台本を読み、その台本をリリアンが現地のルオー語に翻訳して通訳してくれるのです。リリアンはとても聡明な女性で、私たち鍼灸チームはいつも助けられています。



現地では鍼灸治療がとても人気になりました。このように鍼灸治療が市民権を得ることが出来たのは、

現地の人々の間に、『痛みを取るには鍼が効く。鍼治療を受けると楽になる。』と口コミで広がった事と、坂光先生はじめ、これまでに参加して下さった鍼灸の先生方が、一日の活動を終えてから、内科の先生などキャンプのスタッフの方々に鍼灸の体験治療を施術して下さったからです。そのおかげで、内科の先生からの紹介が増えました。勿論、最初から鍼灸を指名？してくる人達も大勢います。

2010年に初めて現地を訪れた時、「一体何をやるんだろう？」と皆が遠巻きに見ていたことを考えると、隔世の感があります。

昨年のレポートでも坂光先生が書いていらっしゃいますが、毎年キャンプへ行くまでの準備が大変です。今年もキャンプ直前に現地当局の受け入れ態勢が急に変更になったため、参加者の方々にはいろいろな書類等をご用意いただき、ご迷惑をおかけしました。その際に、いつも現地とのやり取りをしてくださるのは、英語が堪能な坂光先生です。坂光先生は私たち理事会には無くてはならない方です。いろいろ頼ってばかりで申し訳なく思っています。

今回はまた、参加者で内科医の菊地先生のご尽力により、キシー病院（地域の中核的病院）での先生方の研修が実現しました。こちらも大きな成果でした。今後、現地での若い先生方の活動の道筋がついたかもしれません。夕食の時や別席での飲み会の時に、若い先生方を中心して大いに話が盛り上がり、皆さんがお互いに刺激を受けあっている様子を拝見するのも楽しいことでした。僭越ながら、私も小児ハリが小児科の先生のお役に立てればと、実演しながらお話をさせていただきました。どこかでお役に立てば嬉しく思います。



ゲム・イースト村での活動は、現地の自立を支援していく段階になって参りました。コミュニティセンターが医療施設に昇格していくプロセスはもう少し時間がかかりそうですし、井戸の通水もあと一歩です。今後とも現地を見守りつつ、私達に出来ることは皆様のお力をお借りしながら、続けて参りたいと思っております。これからもアサンテ ナゴヤへのご支援どうぞよろしくお願い申し上げます。

アフリカ支援 アサンテ ナゴヤの活動にご興味のある方は以下のリンク先をご覧ください。

アフリカ支援 アサンテ ナゴヤ ホームページ <http://asante-nagoya.com/>

アフリカ支援 アサンテ ナゴヤ facebook ページ <https://www.facebook.com/asante.nagoya>